

令和8年度 第1回川崎市社会教育委員会麻生市民館専門部会 摘録

■日時 令和8年7月7日（火） 午前10時00分～正午

■場所 麻生区役所 第2会議室

■出席委員	川崎市立麻生中学校校長	小松 英光	委員
	麻生区文化協会副会長	井上 俊夫	委員
	麻生区地域教育会議議長	名古屋 洋一	委員
	麻生市民館サークル連絡会	平出 圭子	委員
	麻生区町会連合会常任理事	岡倉 進	委員
	市民委員	浜田 富美恵	委員
	市民委員	葉倉 峰雄	委員
	和光大学現代人間学部非常勤講師	角田 季美枝	委員
	麻生区PTA協議会会長	前村 嘉昭	委員

欠席無

■事務局 麻生区役所生涯学習支援担当 宮島担当課長、村野課長補佐、作本主任、田中職員

■指定管理業者	あさお・未来共創パートナーズ	三枝氏（アクティオ株式会社）
	麻生市民館	三橋館長、椎名振興係長
	岡上分館	関口分館長

■傍聴者 2名

■議事等

1 開会

2 挨拶

＜事務局（宮島担当課長）＞

専門部会は社会教育施設の円滑な運営を図るために設置されている。今年度より麻生市民館・岡上分館は、指定管理制度が導入され新しい指定管理者により運営がスタートしている。麻生区では少子高齢化や人口減少が進む一方、新百合ヶ丘駅周辺の再開発など地域環境が変化している。それらの状況を踏まえて、新たな市民館運営、各事業等について、委員の専門的見地から意見をいただき、より市民に必要な市民館の実現を目指したいと考えている。

3 事務局職員・指定管理業者の紹介

4 委嘱状交付・委員自己紹介

5 部会長・副部会長の選出

<岡倉委員>

前期において適切に議論をまとめており、引き続き浜田委員に部会長をお願いしたい。

<井上委員>

浜田委員のこれまでの経験や実績を踏まえ、引き続き部会長を務めていただくことが望ましい。

<浜田委員>

推薦いただき感謝する。指定管理者制度移行期でもあり、引き続き学びながら区民に還元できる専門部会活動を進めていきたい。

<事務局（村野課長補佐）>

異議無との確認により、部会長を浜田委員。副部会長については岡倉委員が手をあげていただいたため、岡倉委員を副部会長とすることを承認。

なお、改めて当専門部会は、川崎市社会教育委員会会議規則により社会教育施設の円滑な運営を図るために設置されていることを説明。

6 議事

(1) 令和8年度の主な事業について

<麻生市民館 三橋館長>

資料1「令和8年度麻生市民館社会教育振興事業実施計画」により、事業内容、実施時期、施策状況等について説明。

障害者学習活動やボランティア育成事業、平和・人権に関する学習事業、青少年事業、シニア社会参加支援事業などを実施する予定である。子育て支援啓発事業は既に実施しており、SNS等を発信し、広く周知を促している。また、市民活動支援や学習相談機能の充実を図り地域住民の主体的な学びや活動の支援を行う。リカレント教育や市民エンパワーメント事業など、新たな学びにつながる事業についても実施していく。

<事務局（村野課長補佐）>

資料1「生涯学習支援担当の事業」により、事業内容、実施時期、実施状況等について説明。

P T A家庭教育学級への講師派遣やP T A活動研修、地域教育会議推進事業を継続して実施する。また、和光大学との連携による、あさおアート体験プロジェクトや理科実験、生き物観察講座など地域資源を活かした事業を予定している。災害対応力向上講座については、危機管理担当と連携しながら実践的な内容を検討している。さらに、多文化スポーツフェスティバルでは虹ヶ丘地区を対象に外国籍住民と地域住民との交流を促進したいと考えている。市民館以外の場所でも事業を行うなど、アウトリーチによる事業展開を進め、市民館に来館しない層にも事業を届け、市民館・分館の存在を周知していきたい。

<麻生市民館 三橋館長>

工事・維持管理に関する実施事項、施設の改善状況について説明。

前から改善要望のあったギャラリーについては、高所作業台を導入し、安全対策として利用ルールの整備を行った。また、利用者の意見を把握するため受付に意見箱を設置した。

「中高校生の自習する場の拡充」や「水飲み場のリニューアル」などの意見が出ている。できるものは着手し、毎月の定例会で意見を共有する。

<麻生市民館岡上分館 関口館長>

資料1「令和8年度麻生市民館岡上分館社会教育振興事業実施計画」により、事業内容、実施時期、実施状況等について説明。

シニア社会参加支援事業については年度後半に実施予定であり、現在企画を検討している。また、成人教室については全5回程度の実施を予定し、自分史づくりをして朗読してもらう等の学習活動を展開する予定である。家庭・地域教育学級では、子ども文化センター等とも連携しながら、ベビーマッサージや体操、読み聞かせなどを取り入れ、子育て世代の交流や学びの場づくりを進める。市民自主学級としては、「鶴見川」をテーマとした講座を実施する予定であり、地域の自然や環境を学ぶ機会とするとともに、市民参加型の事業として進めていく。市民自主企画事業は学生が企画段階から参加しており、専門部会で心配されていたようだが、順調に準備を進めている。タンゴドラム体験講座など、市民の学びをきっかけにサークル活動へつなげる市民エンパワーメント事業も実施する予定である。

図書室を活用した地域交流事業に取り組んでいる。「みんなの本棚」事業では、地域住民が選んだ本を紹介する棚を設置し、本を通じた交流や図書室利用の促進を図る。開始前から複数の申し込みがあり、関心の高さがうかがえる。

工事・維持管理に関する実施事項、施設の改善状況について説明。

図書室の利用時間を延長したことで学生利用が増加している。また、エントランスの改修や中庭整備を行い、利用しやすい環境づくりに取り組んでいる。

●質問及び意見交換

○古本市について

<井上委員>

古本市は過去にも実施しており、他の行事と同時開催させてもらった。過去の事例を参考にするとういのではないかな。

<麻生市民館 三橋館長>

古本市は本を通じた人の交流、持っている本を誰かと共有したい、自分でコンセプトを持って集まった方々で交流を深める、そういうことが古本市の大切なところと考えている。その先につながる何かがあるといいと思っている。ご意見をいただきながら、事業化していきたい。

<浜田部会長>

キーワードで集まる人が多い。また、導線が大切。参加者への配慮が必要である。

<角田委員>

過去の「ひと箱古本市」の報告が専門部会の活動報告書に掲載されているので参考にするとういのではないかな。

○寺子屋事業について

＜井上委員＞

寺子屋合同プロジェクトを作っている。栗木台小学校他３校と連携し、寺子屋事業に関する情報共有や相談、協力を行っている。寺子屋関係事業への協力が可能であり、必要な際は随時支援する。

＜前村委員＞

虹ヶ丘の立ち上げ等にも関わっているのでサポートさせていただきたい。

事業計画について、昨年やっていないものを今年実施するとか計画しているようだが、昨年実施した結果、今年こうなっているという方が有意義ではないか。

○多文化共生と地域交流について

＜前村委員＞

多文化共生サロンについて、外国籍住民同士のコミュニティがメインなのか外国籍住民と日本人の交流がメインなのか。

＜麻生市民館（椎名係長）＞

識字学習で外国籍住民がうまく日本に溶け込めるように、ボランティアの方がフォローしている。昨年度はなかったが、もっとブラッシュアップできるように企画した。サロンとはいうが、外国籍の方がどういう点で困っているか等、我々がサポートする趣旨で設定している。

○麻生市民館のネット環境について

＜前村委員＞

市民館の ICT 環境について、オンライン会議や Wi-Fi 環境は必須であることから、時代に即したネットワーク環境の整備をしてほしい。

○市民館事業の評価について

＜前村委員＞

参加人数が少なくても参加者に大きな学びや成果があれば意義は大きい。数字だけでなく事業の質や成果に着目する必要がある。

＜名古屋委員＞

人数だけでは把握できない効果もあるため、地域への波及効果や継続的な活動につながったかなど、中長期的な視点も必要である。

＜岡倉副部会長＞

昨年は評価、PDCAについて議論した。意見に対して取り組んだ内容が見える化してほしい。

＜角田委員＞

事業の継続性、事業の改善性が見えるよう皆さんと議論したいと思う。

○広報・情報発信について

＜麻生市民館（三橋館長）＞

市民館だよりに加え、ホームページやSNSを活用しながら多様な世代へ情報発信を行う必要がある。特に若い世代は紙媒体だけでは情報が届きにくい。市民館だよりには新たにギャラリー情報を追加した。

＜角田委員＞

新しいホームページはいままでの直営時代のホームページにまだリンクされていなかったり、うまく飛べないところがある。継続して確認・修正を行ってほしい。

事業の専門性について、専門職員が配置されているのか、また社会教育の視点を踏まえて事業が実施されているのかが見えにくい。市民館だよりやWebサイト等において、専門職が事業を担っていることが市民に分かるよう、情報発信の工夫をしてほしい。

利用者懇談会については、いつ行うのか。

＜麻生市民館（三橋館長）＞

利用者懇談会については、年度の早い時期ではなく、市民館の講座や事業に参加し、活動内容への理解や関心が深まった年度後半に実施する予定。また、より多くの利用者や地域住民の意見を集められるよう、開催に当たっては市民館だよりやホームページ、館内掲示等を活用しながら周知を広く行い、参加しやすい環境づくりに努めたい。さらに、日頃利用していない市民の声も聴取できるよう、広報方法や実施時期について工夫を図る必要がある。

＜岡上分館（関口館長）＞

同様に考えている。

＜角田委員＞

市民自主学級のチラシが、毎回申込にとなっていて驚いた。市民自主学級は市民自主企画事業と違い連続して参加するものだとして理解している。受講者が連続して参加することで受講者同士がつながり、何か活動ができればいいが、毎回募集だと意図が違うのではないか。

＜麻生市民館（椎名）＞

毎回参加してもらえれば良いが、事情があって毎回参加できない人がいるので補足で募集している。

＜角田委員＞

自主学級と自主企画の違いをわからない市民も多いので、自主学級と自主企画の違いを工夫し、PRしてほしい。

＜井上委員＞

次回からはPDCAサークルをまわして事業を実施して欲しい。

事業の実施については、5M(人、材料、方法、金、設備)とタイミングを考え、報告してほしい。

＜浜田部会長＞

指定管理制度に代わったタイミングで色々な話が出ているが、スタートして2、3か月なので焦ることなく、最終的にいい形になるように、アイデアを出し合って、力を合わせて進めていきたい。

<葉倉委員>

これまで自主企画等を提案する側だったが、立場が違うとまた新たな違うものが見えてくる。

(2)令和8・9年度麻生市民館専門部会議題について

<事務局（村野課長補佐）>

令和8・9年度の専門部会で調査等を行う議題の内容を決めていただきたい。会議は、全8回程度を予定している。こちらでおおまかなスケジュール案を作成した。テーマ選定、現状把握、意見交換、報告書作成という流れで進めていただけるとよい。

<角田委員>

部会は2年で課題をまとめるという流れだが、前回は課題だと思われる社会教育振興事業を取り上げて、そのPDCAを検証してみるかということだったと思う。例えば、子どもの部分を取り上げてPDCAを回していくにはどうすればよいかとか、市民館だよりをどうやっていくのかとか。テーマの継続もありではないか。

<岡倉副部長>

「市民館・図書館の管理・運営のあり方」では市民館を社会教育の拠点になるんだという話があって、それから5年くらいたって、指定管理者制度のもとでどのように取り組んでいくのか、そのような視点で見直していくのか検討するのがいいと思う。

また、PDCAについて報告書にまとめたが、読んでいただいているか。利用者懇談会は年度途中に入れ、具体的にその中で取り入れられるものがあれば取り入れていくのもよい。

<事務局（村野課長補佐）>

議題の決定は次回でもよい。

<前村委員>

市民館をどうブランディングするかが重要。市民館を利用していない層へのアプローチや、自主企画のサポートの仕方を検討するのはどうか。

<名古屋委員>

先日、市民館・図書館の建替に向けたヒアリングを受けたが、市民館のあるべき姿、ソフト・ハードを含めて、多世代交流できて未来を見据えた市民館のあり方を話し合っていきたい。全てを網羅するのは厳しいかもしれないが、市民の思いを吸い上げた形で出していく、展望ビジョンを語るのもよい。

<浜田部長>

以前は中高生が市民館にいなかったが、今では自習室を作ってほしい等要望をするまで関心を持つようになった。更にその次に期待したい。

<小松委員>

中学校の現状は、教員不足、部活動の顧問等どのようにフォローすれば良いか等課題がある。子どもには多面性があり、教室で一緒にいたい子もいれば、そうでない子もいる。麻生中は、5つの小学校から新入生を受け入れているので人間関係作りが難しい。

<浜田部長>

学校教育と社会教育をつなげていくコミュニティスクールの役割も考えていくことが大切

であると感じる。

<角田委員>

図書館や市民館だけでなく麻生区は広いので、自習室ネットワークを増やしていき、その中で市民館の役割を話し合えば良い。市民館や図書館は自習室ではないが、自習室のニーズをどう考えるか。

<名古屋委員>

今の子どもたちを考えるには、経済環境、家庭環境等々、多岐にわたる側面から捉える必要がある。公共施設等使えるツール、空いてるところを何かに利用できないかという発想もある。

<平出委員>

今やっている自習スペースは人がいっぱい通る。色々な目があつて、見守ることができるが、部屋の中だと閉鎖された空間の中で何が起きているかがわからない。危険が伴う可能性もある。市民館だけでなく、色々と逃げ場があるとよい。

<名古屋委員>

大人の目があることが大事。

<岡倉副部長>

最近、区内の町内会ではその町内に住む有名人、著名人が地域のために講座を開催するといった取組があり、生涯学習に寄与している状況が出てきている。

<井上委員>

今、自習している場所はフリースペースなので、勉強だけでなく囲碁などをしてもいいと思う。高齢者の談話スペースとか。市民館としてはその方が理想的かなと思う。

テーマは、今の問題、課題として、2年間かけて麻生区民がほしい市民館みたいな話をするのもタイミング的にいいかな。市民館ができるときの作文集等があるので参考にしながら検討するのもよいのではないかな。

<浜田部長>

今年度の議題として、PDCAという視点が一つ。昨年の報告書を利用して、今回もそこから発展事業をしぼって事業を検証する。二つ目は先々を見据えて私たちが目指すものを考えていくこと。

<事務局（宮島担当課長）>

ご意見をまとめると、

- ・市民館図書館のあり方の検証
- ・市民館に来れない人へのアプローチ
- ・市民自主の団体のサポート
- ・市民館の建て替えに伴う今後の市民館について
- ・中高生の学習スペース

といったことが候補になっている。

<浜田部長>

今回あげられた意見を皆さんに持ち帰っていただいて、それぞれの立場でご検討いただき、次回に決めていきたい。事務局を通じてメールでのやり取りを行いながら、資料等、皆で共有

できたらいい。

(3) その他

特になし

<事務局>

今後の予定は、資料に記載したとおり。次回からは市民館が会場になる。

以上